



り、今回の数字はその影響が大きい。3月には再び前年割れとなる見通し。
2月の水戸京成百貨店の売り上げは前年同月比0・9%増、東武宇都宮百貨店が同2・8%増、高崎高島屋も同10・0%増となった。
主な要因は、去年2月

百貨店の自助努力も販売増に寄与した。
東武宇都宮百貨店では定休日を1日返上して営業した。水戸京成百貨店では、春用スーツへの買い替え需要や、3月から本格的に始まった就職活動向けに需要を喚起。男性向けのビジネススーツやかばんなどが好調だった。

首都圏では中華圏の旧正月にあたる「春節」で売り上げを伸ばした百貨店も多い。だが「地方では春節の恩恵は受けられない」として、明暗が分かれた。
3月は再び前年を割り込む公算が大きい。東武宇都宮百貨店は「去年3月は、本来2月に売れる

なかつた」として、商材が売れたこともあり、今年3月は苦戦するとみている。また本格的に個人消費が回復している感触はない」としている。

災害時ごみ処理6業者と協定
茨城・東海村
茨城県東海村は4日、災害時に避難所などで発生する家庭ごみやし尿の処理をめぐり、村内のみ処理業者6社で構成する東海村環境整備事業協会と協定を結んだ。災害時の円滑なごみ処理を進

80館が加盟している。ミュージアム割引は、今後も適用施設を広げていきたいと考えた。

革新技術の世界へ

つくばは国際戦略総合特区では超高齢社会の課題解決の糸口になる革新技術を開発し、新産業を育むことを目指している。搭載型や介護用など生活を助ける生活支援ロボットの開発プロジェクトはすでに製品が市場投入され、研究開発の成果がいち早くビジネスに結びついた成功例といえる。

介護・作業の負担軽減

「車椅子に移りまじょうか」。千葉県船橋市の特別養護老人ホーム「さわやか苑」で働く介護職の鈴木大助さん(26)がベッドに寝ていた入居者を車椅子に移動させた。

者の7、8割は腰痛に悩むとされ、介護支援ロボットは腰痛のリスクを減らすと期待されている。サイバードラインは2月にロボットのレンタルを

開始。新潟や大分の介護福祉施設も導入した。昨年10月、同社は重労働を強いられる作業者の負担を軽減する作業支援ロボット5台を大林

組にレンタルした。大林中にドイツを中心とした欧州へ作業支援ロボットの介護、作業支援用ロボットや、パナソニックの

これまでサイバードラインの介護、作業支援用ロボットを使って市内を巡るツアーを開始した。

つくばは観光コンベンション協会は14年4月、JTBと組み、立ち乗り電動二輪車「セクウェイ」を使って市内を巡るツアーを開始した。

つくば支局長 西山彰彦が担当しました。

生活支援ロボ



鈴木さんは、介護支援ロボットのおかげで、腰痛に悩まされることもなく仕事ができるようになったという(千葉県船橋市の「さわやか苑」)

者数は447万人で55歳以上が約54%を占める。大林組技術研究所の上田尚輝部長は「建設現場は人手不足が深刻。高齢者が仕事を長く続けるのにロボットは役立つ」と導入に踏み切った。

14年2月、ISOはプロジェクトで作った案を軸に生活支援ロボットの国際安全規格「ISO13482」を発行した。

つくばは観光コンベンション協会は14年4月、JTBと組み、立ち乗り電動二輪車「セクウェイ」を使って市内を巡るツアーを開始した。

北関東

支局 水戸 029-221-3283
つくば 029-852-1034
宇都宮 028-852-1174
前橋 027-222-3111